



体育祭作文紹介(1組)

体育祭が終わり、振り返りの一つとして作文を書きました。優勝したクラスがあれば、できなかったクラスがある。勝ち負けを決める上では、このことは当たり前です。「悔しい」「あのとき、ああしていればよかった」等の感情は、一生懸命取り組んだからこそ生まれる感情です。先生たちは、勝ち負けは結果であり、その結果に至るまでの「過程」や係活動を通じて協力することの大切さに気付いてほしいとずっと願っていました。みんなの作文には、結果以上に「協力することの大切さ」や「応援されたことが力になった」などの、人との関わり方を工夫したことで絆が深まった内容が書かれていました。先生たちの願いや思いが伝わったことをうれしく思っています。提出された全員の作文を載せたいところですが、紙面の関係で全員を載せることができません。なお、ホームページに掲載する際は、氏名を削除して掲載します。

「初めての体育祭での経験」

僕は、体育祭を通して、意識が二つ変わりました。

一つ目は、「あきらめない心」です。僕は当日、急遽 1500m走に出場することになりました。当日の変更になったので、十分に練習ができず、苦しい走りでしたが、最後まであきらめずに走りぬくことができました。

二つ目は、「互いを助け合う」ということです。僕は、用具係として活動していました。用具係は、競技ごとに必要なものを用意することが仕事内容になっています。僕は、予行練習と当日に先輩に助けってもらうことがありました。自分の担当を間違えて自席に戻ってしまいました。先輩が僕の分の仕事を行ってくれました。当日は、最後の競技の「学級対抗リレー」の準備のときです。ゼッケンの準備が間に合わず、焦っていたときに先輩から「〇番のゼッケンはここにあるよ」「〇番のゼッケンはここに重ねておくから」と手伝ってくれました。

僕は、これらの経験をいかして、一生懸命に努力をすること、みんなで助け合うことを意識して、生活したいと思いました。

「応援」

私は今回の体育祭で応援のすばらしさを改めて感じた。

女子100m走を行っているとき、私は男子と応援席にいた。女子全員が走り終わるまで、応援席にいた一組全員が一生懸命応援していた。関係のない話をしている人など一人もいなくて、

全員が一つになって応援していた。誰かが一位になると、応援している私たちも嬉しかった。このとき、「一組は本当に良いクラスだな」と感じました。

次に私が出場した 1500m走のことです。私は、一位を目指してがんばろうとしていたが、部活でのケガがあり、不安になっていました。そんな中、始まる前に友達から「がんばってね！応援しているよ」と声をかけてもらったので、絶対に勝つと心に決めました。結果は一位になり、とても嬉しかったです。私が最後まであきらめずにがんばることができたのは、友達や先輩や先生が応援してくれたからです。

今回の体育祭で一組は、勝つことができませんでした。しかし、応援は優勝だったと思います。体育祭の団結力をこれからの学校生活にも活かしたいと思いました。

「しぶや おすすめの本50」2021読書コンクール入賞者

夏休みの課題として取り組んだ課題が表彰されました。おめでとうございます。ホームページに掲載する際は、氏名を削除して載せます。



【佳作】POP

- 1組 女子
- 1組 男子
- 1組 女子
- 1組 男子
- 3組 女子
- 3組 女子

【銀賞】POP

- 1組 女子
- 1組 女子
- 1組 女子
- 2組 女子
- 2組 男子
- 3組 女子
- 3組 女子
- 3組 女子

